

研究活動

土居夏樹

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又 は発表 の年月	発行所、発表雑誌又 は発表学会等の名称	概要	編者・著者名 (共著の場合 のみ記入)	該当頁数
(著書) 1. 『三昧耶戒序/秘密三昧耶 仏戒儀/平城天皇灌頂文 / (弘仁) 遺誠』	共著	2003. 12	四季社	『秘密三昧耶仏戒儀』の現代語訳 ならびに語注を担当。	宮坂宥勝・大沢聖寛 佐藤正伸・北川真寛 佐々木大樹	
(学術論文) 1. 秘密莊嚴住心の存在論的 構造について	単著	1997. 3	密教文化 (198)	空海の十住心思想における秘密莊嚴 住心における身心の定義について、M・ ハイデッガーの実存論との対比を行い、 その相違点を論じた。		49-63頁
2. 『般若心經秘鍵』の撰述 年代について—諸開題に 見られる経題解釈法から の考察—	単著	2001. 2	高野山大学大学院 紀要 (5)	近来、空海最晩年の撰述と言われて きた『般若心經秘鍵』の撰述年代につ いて、その経題解釈方法が、天長前半 期で否定される方法であることから、 天長年間中頃までの撰述である可能 性を指摘した。		1-16頁
3. 平安時代初期における 法身説法説の受容	単著	2003. 3	日本印度學仏教学 研究 (51-2)	天長六本宗書に數えられる玄叡の『大 乘三論大義鈔』における法身説法批判を 取り上げ、空海当時の顕密対弁に対する 反応を検証した。		652-654頁
4. 『弁顕密二教論』卷上に おける「或者」について	単著	2004. 12	高野山大学大学院 紀要 (8)	『弁顕密二教論』卷上で空海が批判し た、『法華經』教主を法身と解釈する 「或者」について、それが伝教大師最 澄を意識したものと考えられることを 指摘した。		1-16頁
5. 『華嚴宗一乗開心論』に おける「円圓海」解釈 —『弁顕密二教論』との 関連を通して—	単著	2004. 12	日本印度學仏教学 研究 (53-1)	天長六本宗書に數えられる普機の『華 嚴宗一乗開心論』における『釈摩訶衍 論』解釈を、空海の『弁顕密二教論』に おける解釈と比較し、空海の顕密対弁に に対する空海当時の反応を検討した。		46-49頁
6. 『二教論』における『大 智度論』法性身説法につ いて	単著	2005. 3	密教学研究 (37)	『二教論』で空海が用いた『大智度 論』所説の法性身説法について、空海当 時の理解ならびにそれに基づく批判を踏 まえつつ、空海が『大乘起信論』および 『釈摩訶衍論』の始覺門から、この法性 身説法を解釈している可能性を指摘した。		59-73頁
7. 『弁顕密二教論』におけ る『楞伽經』法仏説法の 解釈について—特に法相 教學との対比を通じて—	単著	2005. 12	密教文化 (215)	空海が独自の解釈を行ったとされる 『楞伽經』所説の法仏説法について、 それが空海当時の法相教學では常識的 に論じられている点、およびその上で 空海がその内容を大きく変容させている 点を指摘した。		1-28頁
8. 「一乗経劫」について —即身成仏思想に関する 問題—	共著	2006. 2	高野山大学密教文化 研究所紀要 (19)	空海の提唱した即身成仏思想につい て、華嚴・天台の成仏論との関連を問題 とした『宗義決択集』所収の論即である	北川真寛	43-70頁

				「一乗経劫」について、天台宗における議論と共に検討を加えた。		
9. 『大日經開題』における「神変」と「加持」について	単著	2010. 3	密教学研究 (42)	『大日經開題』における「神変」と「加持」について、伝統教学における註釈を中心に検討した。		135-150頁
〈口頭発表〉						
1. 平安時代初期における法身説法説の受容		2002. 7	日本印度學仏教学会 第53回大会 (於 東国大学校)			
2. 『華嚴宗一乘開心論』における「円圓海」解釈 —『弁頭密二教論』との関連を通して—		2004. 7	日本印度學仏教学会 第55回大会 (於 駒澤大学)			
3. 『二教論』における『大智度論』法性身説法について		2004. 10	日本密教学会 第37回学術大会 (於 総本山金剛峯寺)			
4. 『大日經開題』における「神変」と「加持」について		2009. 10	日本密教学会 第42回学術大会 (於 真言宗豊山派宗務所)			
〈講演〉						
1. キャリア教育から見た中等教育 —日米欧の国際比較—						